

記入例

農地法第3条の規定による許可申請書

令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日

別府市農業委員会会長 殿

共有名義人がいる場合は、①か②のように記入。  
 ①持分○分の□ 別府 太郎  
 持分○分の△ 別府 次郎  
 ②別府太郎 外△名別紙記載のとおり  
 と記入し、別紙1を添付

申請者  
 <譲渡(貸)人>

<譲受(借)人>

住所 別府市大字別府10番地

住所 別府市大字東山1000番地

氏名 別府 太郎

氏名 東山 一郎

下記農地(採草放牧地)について

所有権  
 賃借権  
 使用貸借による権利  
 その他使用収益権( )

を移転  
 設定(期間 )年

したいので、

農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。

(※該当する項目に○を付してください。)

記

登記事項証明書(又は住民票)に記載の正式住所のとおり記入。  
 (通称住所がある場合はお間違えないようご注意ください。)

1.申請者の氏名等(国籍等は、所有権を移転する場合に譲受人のみ記載してください。)

申請者	氏名	年令	職業	現住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者
譲渡人 (貸人)	別府 太郎	75	—	別府市大字別府10番地		
譲受人 (借人)	東山 一郎	50	農業	別府市大字東山1000番地	日本	

2.許可を受けようとする土地の所在等

所在地番			地目		面積 (㎡)	対価、賃料 等の額(円) [10a当たりの額]	所有者の氏名 又は名称 [現所有者が登記簿と異なる場合]	所有権以外の使用収益権が 設定されている場合	
大字	字	地番	登記簿	現況				権利の種類・内容	権利者の氏名又は名称
別府	棚林	100番1	田	田	1,200	400,000	譲渡人と同じ	なし	
別府	棚林	100番2	田	田	500	100,000	//	質権	東山 三郎

登記事項証明書の内容を転記。(現況欄は現況を記入。)筆数が多くて書ききれない場合は「別紙記載のとおり」と記入し別紙2を添付する。

どのような契約を結び、農地をいつから使用するか等について記入。  
 契約の種別…売買、贈与、賃貸借、使用貸借等  
 権利の移転又は設定の時期…許可あり次第等  
 契約期間…令和○年○月○日～令和○年○月○日まで(貸借のみ)

3.権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容

売買契約、許可あり次第所有権移転

4.権利を設定し、又は移転しようとする理由

譲渡人 高齢のため、耕作の規模を縮小したい。

譲受人 現在所有している農地に隣接しており、効率的な耕作が可能。農業経営安定のため。

(記載要領)

- 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名又は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄付行為の写しを添付(独立行政法人及び地方公共団体を除く。)してください。
- 国籍等は、住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の45に規定する国籍等(日本国籍の場合は、「日本」)を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国(内国法人の場合は「日本」)を記載してください。
- 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。
- 記の3は、権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載してください。また、水田裏作の目的に供するための権利を設定しようとする場合は、水田裏作として耕作する期間の始期及び終期並びに裏作の概要を併せて記載してください。

## 農地法第3条の規定による許可申請書(別添)

### I 一般申請記載事項

<農地法第3条第2項第1号関係>

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が所有権等を有する農地及び採草放牧地の利用の状況

所 有 地	農地面積 (㎡)	田	畑	樹園地	採草放牧地 面積(㎡)	所有地以外の 土地	農地面積 (㎡)	田	畑	樹園地	採草放牧地 面積(㎡)	
												自作地
	8,000	5,000	1,000	2,000	—		2,000	2,000	—	—	—	
	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
地	所在・地番		地目 登記簿 現況		面積(㎡)	状況・理由	所在・地番		地目 登記簿 現況		面積(㎡)	状況・理由
	非耕作地						非耕作地					

(記載要領)

- 「自作地」、「貸付地」及び「借入地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。なお、「所有地以外の土地」欄の「貸付地」は、農地法第3条第2項第5号の括弧書きに該当する土地です。
- 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されていないものについて、筆ごとに面積等を記載するとともに、その状況・理由として「～であることから条件不利地である」、「賃借人〇〇が〇年間耕作放棄している」、「～のため〇年間休耕中である」等耕作又は養畜の事業に供することができない旨を詳細に記載してください。

1-2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の機械の所有の状況、農作業に従事する者の数等の状況

(1) 作付(予定)作物、作物別の作付面積

	田	畑	樹園地	採草放牧地
作付(予定)作物	米	キャベツ	ゆず	
権利取得後の面積(㎡)	8,200	1,500	2,000	

(2) 大農機具又は家畜

数量	種類	トラクター	田植機	コンバイン	管理機	軽四貨物車	肉用牛
確保しているもの	所有リース	1	1	1	1	1	10
導入予定のもの (資金繰りについて)	所有リース						

(記載要領)

- 「大農機具」とは、トラクター、耕うん機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは、牛、豚、鶏等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ(融資が受けられることが確実なものに限る。)等資金繰りについても記載してください。

(3) 農作業に従事する者

- 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況  
 農作業歴 **30** 年、農業技術修学歴 **3** 年、その他( )

② 世帯員等その他常時雇用している労働力(人)	現在: <b>2人</b>	(農作業経験の状況: )
	増員予定: <b>なし</b>	(農作業経験の状況: )
③ 臨時雇用労働力(年間延人数)	現在: <b>なし</b>	(農作業経験の状況: )
	増員予定: <b>なし</b>	(農作業経験の状況: )

- ①～③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間  
**8** km **10** 分

<農地法第3条第2項第2号関係> (権利を取得しようとする者が農地所有適格法人である場合のみ記入してください。)

2 その法人の構成員等の状況(別紙に記載し、添付してください) **※様式があります。**

<農地法第3条第2項第3号関係>

3 信託契約の内容(信託の引き受けにより権利が取得される場合のみ記入してください。)

※個人であれば記入不要

<農地法第3条第2項第4号関係> (権利を取得しようとする者が個人である場合)

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況(「世帯員」とは、住居、及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は揚陸の事業に従事するその他の2親等以内の親族をいいます。)

農作業に従事する者の氏名	年齢	主たる職業	権利取得者との関係 (本人又は世帯員等)	農作業への年間従事日数	備考
東山 一郎	50	農業	本人	300	

(記載要領)

備考欄には、農作業への従事日数が年間150日に達する者がいない場合に、その農作業に従事する者が、その行う耕作又は養畜の事業に必要な行うべき農作業がある限りこれに従事している場合は○を記載してください。

<農地法第3条第2項第5号関係>

5 農地又は採草放牧地につき所有権以外の権原に基づいて耕作又は養畜の事業を行う者(賃借人等)が、その土地を貸し付け、又は賃入れしようとする場合には、以下のうち該当するものに印を付けてください。

- 賃借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため、一時貸し付けようとする場合である。
- 賃借人等がその土地をその世帯員等に貸し付けようとする場合である。
- 農地利用集積円滑化団体がその土地を農地売買等事業の実施により貸し付けようとする場合である。
- その土地を水田裏作(田において稲を通常栽培する期間以外の期間、稲以外の作物を栽培すること。)の目的に供するため貸し付けようとする場合である。(表作の作付内容＝、裏作の作付内容＝)
- 農地所有適格法人の常時従事者たる構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

<農地法第3条第2項第6号関係>

6 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

(例えば、集落営農や経営体への集積等の取組への支障、農業の使用方法的の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。)

- (例)・権利取得後において周辺地域の営農活動を阻害する要因はありません。**
- ・取得する他の周囲は水稲作付地帯であり、取得後もこれまでどおり水稲の栽培をします。
  - ・地域の水利調整に参加し、取決めに遵守します。
  - ・地域の農地の利用調整に協力します。
  - ・農薬の使用方法的等について、地域の防除基準に従います。

II 使用貸借又は賃貸借に限る申請での追加記載事項

権利を取得しようとする者が、農地所有適格法人以外の法人である場合、又は、その者又はその世帯員等が農作業に常時従事しない場合には、I の記載事項に加え、以下も記載してください。

(留意事項)

農地法第3条第3項第1号に規定する条件その他適正な利用を確保するための条件が記載されている契約書の写しを添付してください。また、当該契約書には、「賃貸借契約が終了したときは、乙は、その終了の日から〇〇日以内に、甲に対して目的物を原状に復して返還する。乙が原状に復することができないときは、乙は甲に対し、甲が原状に復するために要する費用及び甲に与えた損失に相当する金額を支払う。」「甲の責めに帰さない事由により賃貸借契約を終了させることとなった場合には、乙は、甲に対し賃借料の〇年分に相当する金額を違約金として支払う。」等を明記することが適当です。

<農地法第3条第3項第2号関係>

7 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどのような場面でどのような役割分担を担う計画であるかを以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の取決めの遵守、獣害被害対策への協力等について記載してください。)

**※農地所有適格法人以外の法人又は個人で農作業に常時(150日)従事しない場合は記入する**

<農地法第3条第3項第3号関係> (権利を取得しようとする者が法人である場合のみ記載)

8 その法人の業務を執行する役員又は重要な使用人のうち、その法人の行う耕作又は養畜の事業に常時従事する者の氏名及び役職名並びにその法人の行う耕作又は養畜の事業への従事状況

(1) 氏名

**※個人であれば記入不要**

(2) 役職名

(3) その者の耕作又は養畜の事業への従事状況

その法人が耕作又は養畜の事業(労務管理や市場開拓等も含む。)を行う期

年 月 日

そのうちその者が当該事業に参画・関与している期間:

年 月 日 (直近の実績)

年 月 日 (見込み)

Ⅲ 特殊事由により申請する場合の記載事項

9 以下のいずれかに該当する場合は、該当するものに印を付し、I の記載事項のうち指定の事項を記載するとともに、それぞれの事業・計画の内容を「事業・計画の内容」欄に記載してください。

(1) 以下の場合、I の記載事項全ての記載が不要です。

- その取得しようとする権利が地上権(民法(明治29年法律第89号)第269条の2第1項の地上権)又はこれと内容を同じくするその他の権利である場合(事業・計画の内容に加えて、周辺の土地、作物、家畜等の被害の防除施設の概要と関係権利者との調整の状況を「事業・計画の内容」欄に記載してください。)
- 農業協同組合法(昭和22年法律第132号)第10項第2号に規定する事業を行う農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同項の委託を受けることにより農地又は採草放牧地の権利を取得しようとする場合、又は、農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同法第11条の50第1項第1号に掲げる場合において使用貸借による権利若しくは賃借権を取得しようとする場合
- 権利を取得しようとする者が景観整備機構である場合(景観法第56条第2項の規定により市町村長の指定を受けたことを証する書面を添付してください。)

(2) 以下の場合、I の1-2(効率要件)、2(農地所有適格法人要件)以外の記載事項を記載してください。

- 権利を取得しようとする者が法人であって、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地における耕作又は養畜の事業が、その法人の主たる業務の運営に欠くことのできない試験研究又は農事指導のために行われると認められる場合
- 地方公共団体(都道府県を除く。)がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を公用又は公共用に供すると認められる場合
- 教育、医療又は社会福祉事業を行うことを目的として設立された学校法人、医療法人、社会福祉法人その他の営利を目的としない法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該目的に係る事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 独立行政法人農林水産消費安全技術センター、独立行政法人家畜改良センター又は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

(3) 以下の場合、I の2(農地所有適格法人要件)以外の記載事項を記載してください。

- 農業協同組合、農業協同組合連合会又は農事組合法人(農業の経営の事業を行うものを除く。)がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を稚蚕共同飼育の用に供する桑園その他これらの法人の直接又は間接の構成員の行う農業に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 森林組合、生産森林組合又は森林組合連合会がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその行う森林の経営又はこれらの法人の直接若しくは間接の構成員の行う森林の経営に必要な樹苗の採取又は育成の用に供すると認められる場合
- 乳牛又は肉用牛の飼養の合理化を図るため、その飼養の事業を行う者に対してその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成して供給し、又はその飼養の事業を行う者の委託を受けてその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

(留意事項)

上述の一般社団法人又は一般財団法人は、以下のいずれかに該当するものに限り、該当していることを証する書面を添付してください。

・その行う事業が上述の事業及びこれに附帯する事業に限られている一般社団法人で、農業協同組合、農業協同組合連合会、地方公共団体その他農林水産大臣が指定した者の有する議決権の数の合計が議決権の総数の4分の3以上を占めるもの

・地方公共団体の有する議決権の数が議決権の総数の過半を占める一般社団法人又は地方公共団体の拠出した基本財産の額が基本財産の総額の過半を占める一般社団法人

- 東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその事業に必要な樹苗の育成の用に供すると認められる場合

(事業・計画の内容)